

フルハーネス型墜落制止用器具 取扱説明書

要保存 必ずお読みください。

この度は、フルハーネス型墜落制止用器具をお買い上げいただきましてありがとうございます。

この製品は、建設現場、工事等の高所作業で、作業者の墜落を制止するために使用するもので、厚生労働省の「墜落制止用器具の規格」に合わせて製造したフルハーネス型墜落制止用器具です。ご使用になる前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、内容をご理解ください。特に **▲危険**・**▲警告**・**▲注意**の項目は、事故を未然に防ぐために厳守してください。あわせてこの取扱説明書は大切に保管していただき、紛失された場合には当社もしくはサンコー株式会社にご請求ください。

※安全ブロック・親綱・ロープチャック・S-スライド等を併用される場合はそれらの製品に添付されている取扱説明書も合わせてお読みください。

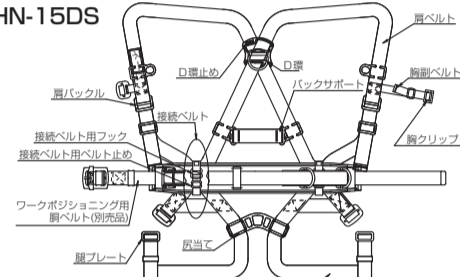
1 製品の説明

このハーネスは、ワークポジショニング用器具を組み合わせ使用できる製品です。ワークポジショニング用器具のお取扱い・廃棄基準にあたっては付属の取扱説明書を参照してください。

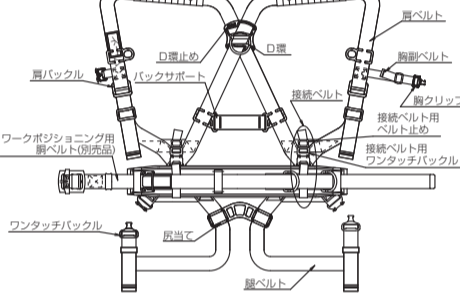
2 各部の名称

※ワークポジショニング用器具は別売品です。

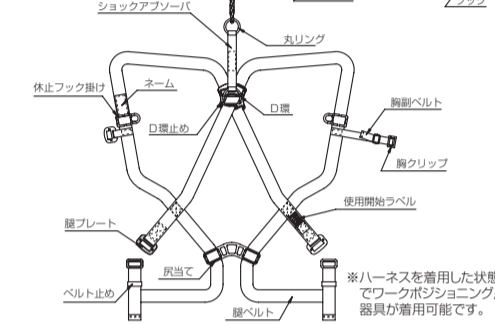
DB-HN-15DS



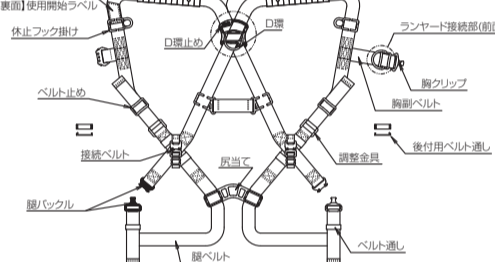
DB-HN-20DS



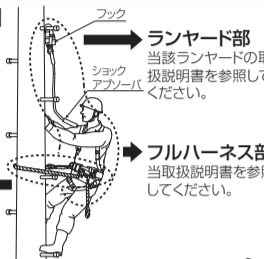
DB-HN-05DS



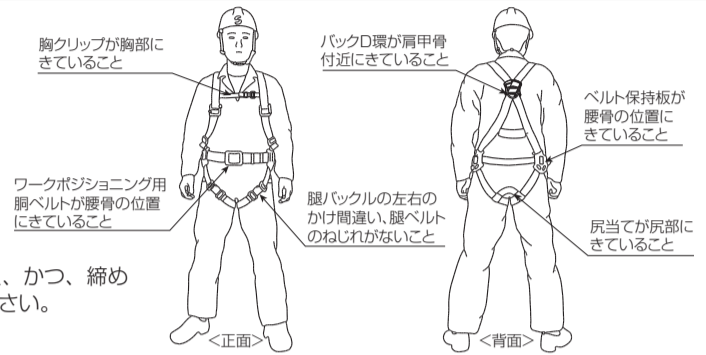
DB-HN-20DS-BKF



[使用方法]



《正しい装着例》

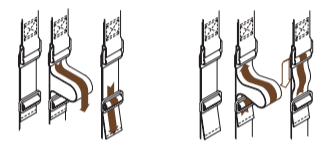


※肩・腿ベルトはたるみがなく、かつ、締めすぎないように調節してください。

各バックル及び調節金具の挿入・操作方法

●肩バックル操作方法

《短くする場合》 《長くする場合》



●[プレートタイプ] 胸クリップ・腿バックル操作方法

《着脱方法》 《短くする場合》 《長くする場合》



●[クリップタイプ] 胸クリップ・腿バックル操作方法

《連結方法》 《解除方法》

“カチッ”と音がするまで差込み板をバックル本体に差し込む。



●接続ベルトの調節方法

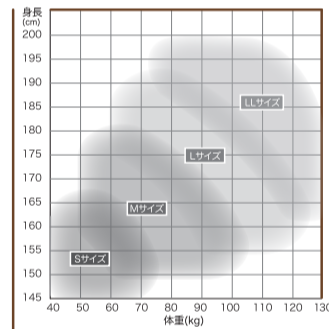
《接続ベルトを長くする場合》 《接続ベルトを短くする場合》



3 使用条件

警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

- (1) 墜落制止以外の目的で使用しない。
- (2) 通常作業が可能な温度範囲(目安として-10℃~+50℃)で使用する。
- (3) 使用ランヤードの表示にて使用可能質量(体重+装備品)を確認し、その質量に見合ったフルハーネス型製品(製品名にて使用可能質量表示)を使用する。
- (4) 右記グラフを参照し、適切なサイズを使用する。



注意 安全にお使いいただくためにお守りください

- (1) U字つり・宙つりなど体重をかける作業には使用しない。

4 使用前点検

- (1) 毎回使用前に取扱説明書をよく読み、正しい使用方法を確認する。
- (2) 毎回使用前に必ず [10 点検・廃棄] の内容に従って各部の点検を行う。
- (3) ランヤードについても(2)と同様に点検を行う。
- (4) 新しい製品を使用する前には、使用開始年月ラベル([11 交換の目安]参照)に、使用を開始した年月を必ず記入する。

5 装着準備

- (1) 補助ベルトに取り付けます。
- (2) 接続ベルトのフックを撮り付けます。
[DB-HN-15DSタイプ] 接続ベルト用フックをループ部に通します。
[DB-HN-20DSタイプ] 接続ベルトを接続ベルト用ベルト止めに通します。
接続ベルトの接続ベルト用ワンタッチバックルを連結します。
- (3) 反対側も同様に取り付けます。
- (4) ワークポジショニング用胸ベルトを通します。(完成)

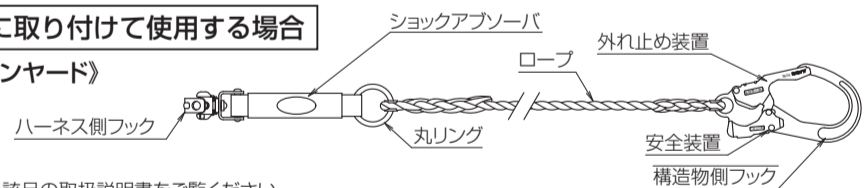
6 装着方法

- ① 一度、腿バックルを外した後、肩ベルトに腕を通すようにして装着する。
- ② 胸副ベルトの胸クリップを差し込む。たるみがないよう(胸が苦しくない程度)に胸副ベルトの長さを調節する。
- ③ ワークポジショニング用胸ベルトを装着する。(ワークポジショニング用胸ベルトがある場合のみ)
- ④ 腿部に腿ベルトを通した後、再び、腿バックルを連結する。
- ⑤ 身体全体にたるみがでないように、肩バックルでベルトの長さを調節する。
- ⑥ 身体全体にたるみがでないように、腿バックルで腿ベルトの長さを調節する。
- ⑦ 尻当てが正しい位置にきていることを確認する。
- ⑧ 腿バックルがワンタッチバックルのものは、差込み板を本体にカチッと音がするまで差し込み、装着してください。
- ⑨ 装着後に、胸副ベルト・バックD環・尻当ての位置を確認する。

7 使用方法

バックD環に取り付けて使用する場合

《ハーネス用ランヤード》



※ご使用の際は、当該品の取扱説明書をご覧ください。

- (1) ランヤード(別売品)のハーネス側フックをハーネスのバックD環に取り付け、もう一端のフックを構造物に取り付けて使用する。
※ランヤードは「ハーネス用ランヤード」をご使用ください。

【新規ランヤード取付】

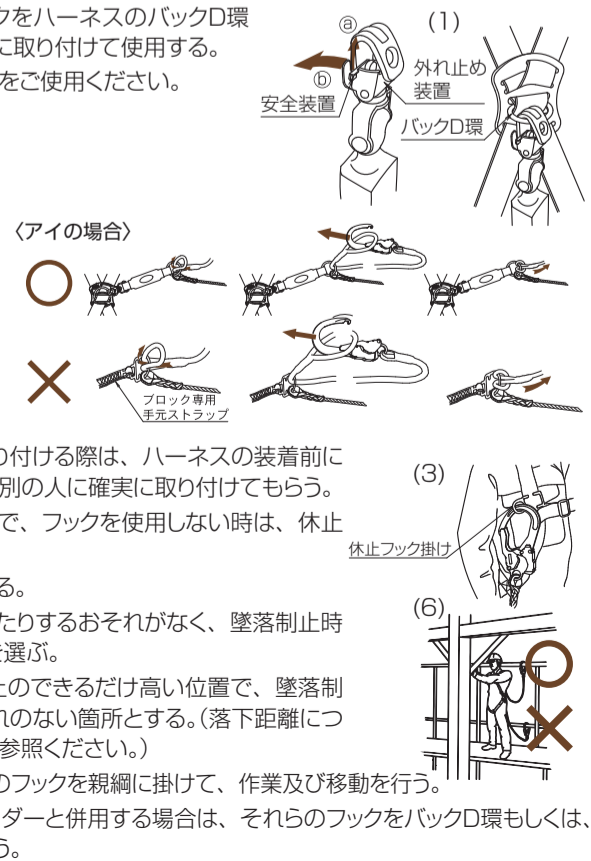
※追加ロープを除く ※手元ストラップは安全ブロック専用とする (操作方法) ① 安全装置を前に押す。 ② 外れ止め装置を下に押す。

【追加ロープ取付】

※追加ロープはカラビナを取り付けて接続しない

(HAL-R-R取付)

(操作方法) ① 安全装置を前に押す。 ② 外れ止め装置を下に押す。



- (2) ランヤードをハーネスのバックD環に取り付ける際は、ハーネスの装着前に取り付ける。装着後に取り付ける場合は別の人に確実に取り付けてもらう。
- (3) ランヤードをハーネスに取り付けた状態で、フックを使用しない時は、休止フック掛けに掛けておく。
- (4) ランヤードは脇/股に挟まないようにする。
- (5) フックを掛ける構造物は、抜けたり外れたりするおそれなく、墜落制止時の衝撃にも十分耐えられる堅固なものを選ぶ。
- (6) フックを掛ける位置は、バックD環より上のできるだけ高い位置で、墜落制止時に床面や構造物等に激突するおそれのない箇所とする。(落下距離についてはご使用ランヤード取扱説明書をご参照ください。)
- (7) 水平親綱と併用する場合は、ランヤードのフックを親綱に掛けて、作業及び移動を行う。
- (8) 安全ブロック(リトラクタ)、セイフスライダーと併用する場合は、それらのフックをバックD環もしくは、丸リングに直接掛けて作業及び移動を行う。

(9) フックは安全装置と外れ止め装置を同時に押さえて開き、構造物に掛けて閉じた後、外れ止め装置が確実に閉まっているか確認する。

(10) フックは、墜落制止時にフック本体がねじれて変形したり、安全装置と外れ止め装置に荷重がかかたりしないように、右図のような正しい方法で取付け構造物に掛ける。

手元ストラップに取り付けて使用する場合

※手元ストラップは安全ブロック専用としてご使用ください。

(1)安全ブロック(別売品)のフックを手元ストラップのD環に取り付けて使用する。

(2)手元ストラップのD環を使用しない時は肩ベルトに取り付けてください。

(3)使用時は肩ベルトから外した状態で使用してください。

■手元ストラップ [STJ] の取り付け方法

(1)手元ストラップのアイの部分部分をハーネスのバックD環に通す。



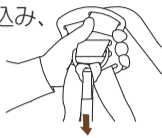
(2)バックD環に通した後、手元ストラップのアイの部分に、手元ストラップのD環を通す。



STJ仕様

※STJはオプション単品を購入後、お客様で取付け可能です。

(3)手元ストラップを引き込み、アイ部分を絞り込み、取り付け完了。



⚠ 危険 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、絶対にやめてください

(1)ランヤードのフックは、抜いたり外れたり、墜落制止時の衝撃で壊れたりするおそれのある構造物には掛けない。

(2)使用前点検を必ず実施し、「10 点検・廃棄」記載の廃棄基準に該当する箇所があるハーネス・ランヤードは使用しない。

(3)ロープが切断するおそれがあるので、墜落制止時に鋼材等の鋭い角にロープが当たらないようにし、やむをえない場合は布等を当てて直接触れないようにする。

(4)ハーネス装着後に、バックD環にランヤードを取り付ける時は、確実に取付けられているか確認ができないので、1人では取り付けない。

(5)休止フック掛けにランヤードのフックを掛けて、U字つりの状態で使用しない。

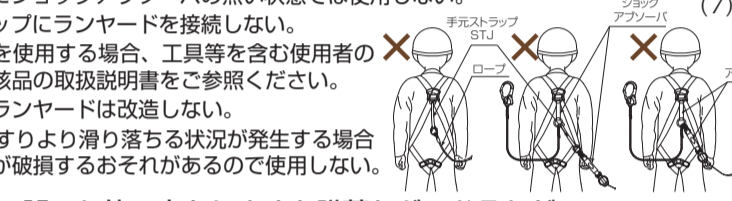
(6)ランヤードにショックアブソーバの無い状態では使用しない。

(7)手元ストラップにランヤードを接続しない。

(8)ランヤードを使用する場合、工具等を含む使用者の体重は、当該品の取扱説明書をご参照ください。

(9)ハーネス、ランヤードは改造しない。

(10)フックが手すりより滑り落ちる状況が発生する場合は、フックが破損するおそれがあるので使用しない。



⚠ 警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

(1)下図のようなフックの掛け方は、墜落制止時に構造物から外れる危険性があるので絶対にしてはならない。



(2)ランヤードのフックは、可能な限りD環より下の位置へ取付けられない様にする。(取付前には、当該ランヤード取扱説明書にて落下距離を必ず確認する。)

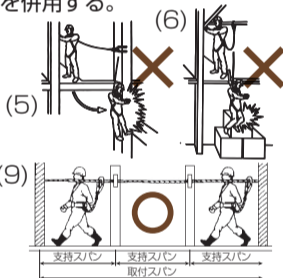
(3)溶接の火花・強い酸やアルカリ・油・その他、高温高熱の物体や化学薬品類が製品にかかたり触れたりしないようにする。

(4)金具の衝突・静電気による火花で爆発・引火する可能性がある場所や、ガスや粉塵の濃度が高い所で使用する場合は、導電・防爆型ハーネスを使用する。その場合、静電服・静電靴を併用する。

(5)万一墜落した場合、振り子状態になり構造物に激突する可能性のある箇所には、フックを取り付けない。

(6)直下の床面や物体との距離が短い場合は、墜落制止時に激突しないように、十分な高位置にフックを取り付ける。(落下距離については使用ランヤード取扱説明書を参照する。)

(7)クレーンや安全ブロック(リトラクタ)のフック等移動するものにランヤードのフックを掛けない。



(8)ランヤードを結んだりくくりつけたりして使用しない。

(9)水平親綱を使用する場合は、1つの支持スパン(支柱と支柱の間)につき使用者は1名のみとする。1つの支持スパンに2名以上で使用すると、墜落時に友引現象が起こるおそれがある。また、親綱の取付スパンには、使用者は2名までとする。

(10)水平親綱を使用する場合は、支柱のところでフックを掛けかえるときに墜落しないよう注意する。

⚠ 注意 安全にお使いいただくためにお守りください

(1)ハーネス・ランヤードを引きずらない。

(2)ベルト・ロープをねじって使用しない。

(3)シノー等工具類を携帯する場合、それらをワークポジショニング用胴ベルトや肩ベルト・胸副ベルト・腿ベルトと身体の間直接差し込まない。

(4)ハーネス、ランヤードは同一メーカー(当社製品)のものを使用する。

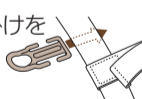
(5)ロープは水分を含むと電気をよく通すので、特に雨の日などは感電に注意する。

8 各部位の取り付け方法

※以下の部品が外れた場合は下記の手順に従って取付けてください。

■休止フック掛けの取り付け方 [HPタイプ]

①休止フック掛けをベルトの下側へ通す。



②下側へ通した後、ベルトの下側へ通す。

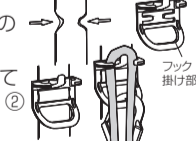


③すべての部分にベルトを引っ掛けて完了。

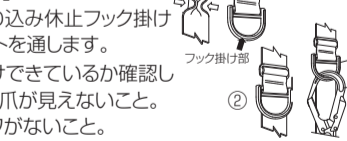


■HPRタイプ(ロープ固定式)

①ベルトを絞り込み休止フック掛けの爪にベルトを通します。

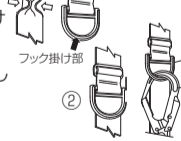


②正しく取付けてきているか確認してください。爪が見えないこと。ベルトにシワがないこと。

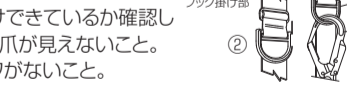


■HDRタイプ

①ベルトを絞り込み休止フック掛けの爪にベルトを通します。

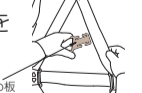


②正しく取付けてきているか確認してください。爪が見えないこと。ベルトにシワがないこと。



■バックサポート

①バックサポートを肩ベルトの下側へ通す。



②下側へ通した後、止め板の爪にベルトを引っ掛ける。



③左右の止め板の爪すべてにベルトを引っ掛けて完了。



■簡易肩パッド[DP]

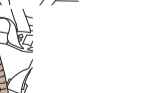
①簡易肩パッドのボタンをすべて外し肩ベルトに巻き付ける。



②簡易肩パッドのボタンを留める。



③完了



■背中用クッションパッド[CPB]

①D環部に合わせます。



②マジック部を留めてから、ホックを留めます。



③完了



■腿用クッションパッド[CPL]

①ホックを外します。



②ベルトに装着し、ホックを留めます。



③完了



9 保守・保管

(1)ベルト、ロープの汚れは、ぬるま湯または中性洗剤を使って洗い、陰干しする。

(2)ベルト、ロープに塗料等がついた場合は、布等でふき取り、溶剤を使ってはならない。

(3)金具類が水等にぬれた場合は、乾いた布でよくふき取った後、さび止めの油をうすく塗る。

(4)金具類の可動部(バックル・フック)は定期的な注油する。砂・泥・モルタル等がついている場合はよく掃除して取り除く。

(5)直射日光や火気・放熱体・腐食性物質を避け、屋内の風通しがよく清潔な場所に保管する。

(6)子供が遊びに使ったり、動物が製品に損傷を与えたりしないよう注意する。

(7)新品のままでも使用せずに長期間保管する場合は、必ず内装箱又は袋などに入れた状態で、かつ、上記の(5)・(6)の内容に特に気をつけて良好な状態で保管する。

10 点検・廃棄

⚠ 警告 誤った使い方をしますと墜落などのおそれがありますので、やめてください

(1)使用前に必ず点検を行い、廃棄基準に該当する箇所があれば廃棄し、新品に取り替える。その際は必ず、使用開始年月ラベル(「11 交換の目安」参照)に使用開始年月を記入する。

(2)少なくとも1ヶ月に一度は、<点検チェックリスト>に従ってより詳細に点検を行う。

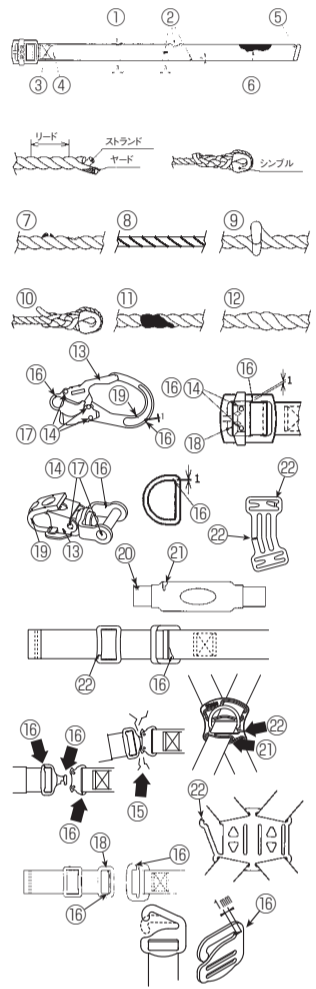
(3)使用中に製品に異常があれば、ただちに使用を中止して再点検を行う。

(4)一度でも大きな衝撃を受けた製品は外観に変化がなくても廃棄する。

〈製品点検チェックリスト〉ロープ式以外のランヤードをお使いの方は当該品の取扱説明書をご覧ください。

点検部分	点検項目	廃棄基準
ベルト	摩耗・擦り切れ	2mm以上あるもの
	切傷・焼損・溶融	2mm以上あるもの
	縫付け部分	ゆるみのあるもの
	縫い糸	切断されているもの/摩耗、擦り切れの激しいもの
	先端止め	変形・脱落しているもの
	薬品・塗料等の付着	薬品が付着したもの/塗料が付着したもの
ロープ	切傷・焼損・溶融	1リード内にフヤーン以上あるもの
	摩耗	摩耗して棒状になっているもの
	キンク	キンク(よじれてコブ状になること)しているもの
	シンプル	脱落しているもの
	さつま編み込み部分	抜けしているもの/ゆるんでいるもの
	薬品・塗料等の付着	薬品が付着したもの/塗料が付着し硬化したもの
<金具類>	変形	変形が目視でわかるもの バックル及び調節金具の締め具合が悪いもの フックの外れ止め装置・安全装置の作動の悪いもの
	操作	リベットのかしめ部にガタ:変形のあるもの フックバックルが正しく結合できないもの/爪が正常に動作しないもの
	摩耗・傷	深さ1mmの傷があるもの/わずかででき裂があるもの リベットの方ジメ部が1/2以上摩耗しているもの
	さび	リベットの方ジメ部の接合部が摩耗し、ベルトがゆるむもの
	バネ	バックルクリップフックのバネが折損・脱落しているもの・動きの悪いもの
	薬品・塗料等の付着	可動部・バネ等に塗料が付着し、拭き取れないもの
ショックアブソーバ	摩耗・擦り切れ 切傷・焼損・溶融	3mm以上あるもの
その他	割れ・き裂	ベルト保持板・D環止め・ベルト止めに割れ・き裂があるもの

(単位: mm)



11 交換の目安

(1)使い方によっても異なるが、ハーネスは使用開始より3年、ランヤードは2年を目安に新品と取り替える。

(2)「10 点検・廃棄」の内容に従って点検を必ず実施し、廃棄基準に達したものは使用しないで新品に取り替える。

※廃棄方法については各自治体にお問い合わせください。

(3)「使用開始ラベル」に使用を開始した年月を必ず記入する。

《使用開始年月ラベル》

使用開始年月
年月
 部品取替年月
年月
年月
 ※必ずご記入願います
 M Size
 サンコー株式会社
 06-6394-3541
 made in JAPAN

12 各部の強さ

項目	墜落制止用器具の規格	試験結果
肩・腿・胴ベルト	15kN以上	20kN以上
環類・丸リング	11.5kN以上	15kN以上
肩・腿・バックル	6kN以上 振動試験により、不意の外れや25mm以上の滑りなきこと	8kN以上 問題なし
胴ベルト用バックル	8kN以上 振動試験により、不意の外れや25mm以上の滑りなきこと	9kN以上 問題なし
フルハーネス	[順方向]15kN以上 [逆方向]10kN以上	[順方向]15kN以上 [逆方向]10kN以上
動的強度 [フルハーネス単体]	[順落下] トルソーを保持し、各部の破断なきこと [逆落下] トルソーを保持し、各部の破断なきこと 落下後にトルソー頭部が上方に復帰しない程度にフルハーネスがずれなきこと	[順落下] 問題なし [逆落下] 問題なし
衝撃吸収性 [フルハーネス型組み合わせ品] (タイプ1*)	□重さ100kgのトルソーを試験落下距離*にて落下 ・トルソーを保持し、各部の著しい破断なき事 ・衝撃値4kN以下 ・ショックアブソーバの伸び1.2m以下 ・落下後のトルソーの背中D環 角度45°以下 フロントD環 角度50°以下	・破断なし ・平均衝撃値4kN以下 ・ショックアブソーバの伸び1m以下 ・角度45°以下

*1: タイプ1とは、自由落下距離1.8mでの衝撃値が4kN以下のショックアブソーバ(機能を備えたランヤードをいう)
 *2: 試験落下距離とはランヤード長に追加落下距離(D環の高さからフック取付高さまでの距離)を加えた距離を指す

お客様相談窓口

この製品の使用方法等に関してご不明の点がありましたら、お買い上げの販売店または下記までお問い合わせください。また、業務用途以外でお使いのお客様が、製品に起因する死亡や重大な怪我に至る事故にあわれたときは、お手数ですが下記までご連絡ください。

サンコー株式会社 本社 TEL : 06 (6394) 3541 (代表)
 FAX : 06 (6395) 0041

発売元 **ジェフコム株式会社** 製造元 **サンコー株式会社**
 本社: 東大阪市石切町3-13-16 〒579-8014 本社: 大阪市淀川区新高1-14-7 〒532-0033
 (この製品はジェフコム株式会社の委託によりサンコー株式会社が製造しました)